



東京都江東区 南砂町中央町会
会長 石原 九二一

我が町会は江東区の南に位置して、一級河川の荒川と地下鉄東西線が走り、ゼロメートル地帯と言われている地区にあります。

戦前から戦後間もなくは農業・漁業・工場地帯でしたが、地下鉄東西線開通後は戸建てとマンションが林立する住宅街へと変貌しました。

本年、町会創立70周年を迎え、現在の会員数は1,150世帯のマンモス町会のひとつと言われ、役員53名にて諸々の事業運営にあたっております。防犯防災対策としては、役員全員にて災害協力隊と役員有志による市民消火隊があり、災害や防犯に対する体制を整備しております。

見守り活動としては、一人暮らしの方や高齢者世帯に事前登録のお願い、女性部員が定期的に往訪して見守り活動に従事、そして役員有志による夕焼けパトロール隊として、月2回子供たちへ早期帰宅の声掛けをして子供たちへの安全への見

守りを実施をしています。

年末4日間は役員全員と中央睦会とで「年末特別警戒本部」を設置し、毎2回の夜警巡回にて防犯防火対策に努めております。

平成29年には町内に20基の「防犯カメラ」を設置し、安心安全の街づくりに務め犯罪防止への効果となっております。

さて、災害対策としてはゼロメートル地帯でもあり住民の関心度も高く、地震、台風等を重点目標として町会事業のなかでも「防災訓練」を最重要課題と位置づけ、毎年10月に避難指定校の区立第三砂町小学校校庭にて、災害協力隊、中央睦会、城東消防団第八分団、消防署、警察との協力のもとに訓練を実施。当日午前7時に震度7の地震発生を想定して、町内の幼稚園児、小中学校生、要介護者、会員有志者の400名から450名位の参加者の



夕焼けパトロール



防災訓練受付風景

もと、応急手当・煙体験・地震体験・AED・市民消防隊放水などの訓練を実施しております。

そこで訓練の成果ともいえる事象が令和元年第19号台風襲来の際にありました。まだ避難勧告発令前学校に避難がはじまりましたので、災害隊員への緊急連絡により学校へ集結を要請し、避難者の受付開始と関係者協議のうえ避難所を開設して台風の通過

に注視しつつ飲料水の手配等にて難事をのり超えました。過去にはキティ台風により堤防が決壊して約8メートル位の浸水被害を受けたニガイ経験もありました。コロナにより2年間は訓練が中止となりましたが、区として初の試みでコロナ禍による密を避けた避難訓練の実施が計画され、行政から当町会が参加指名され体育館にテントと段ボールハウスを設営のうえ感染防止への避難訓練体験をしました。

訓練のマンネリ化を避けるうえで、災害は昼夜を問わず発生することから、令和元年に夜間訓練を提唱し役員会にて実施承認を得ましたので、訓練日午後7時避難学校集合としての訓練を実施しました。当日は夕飯時と初の試みなのでどの程度の参加があるか一抹の不安を抱きつつ当日を迎えましたが、夜にも関わらず350名の参加があり、災害に対する会員の関心度の高さを再確認した次第です。

その後この夜間訓練が都内で初の訓練であることで、消防署に高く評価され令



放水訓練

和3年に消防総監賞をはからずも受賞することとなりました。町会としても大変名誉なことで全会員にもお知らせし、役員全員にて歓びを享受した次第で、山崎区長に表敬訪問を持ってご報告し、区長からもその活動の労と受賞へのお祝いの



夜間訓練

言葉を頂きました。

これからも地球温暖化の影響かも知れませんが、台風や暴風、落雷等の自然災害襲来も多くなり、また、地震発生確率も年々高い比率であると言われる昨今です。災害に対する認識度を高め「自分たちの街は自分たちで守る」を指針として町会運営に携わっていきたく願っております。